

氏 名 (本 国 籍)	何 萍 萍 (中華人民共和国)
学 位 の 種 類	博士 (農学)
学 位 記 番 号	農博甲第 433 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 19 年 3 月 13 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 3 条第 1 項該当
研 究 科 及 び 専 攻	連合農学研究科 生物生産科学専攻
研究指導を受けた大学	信州大学
学 位 論 文 題 目	瀋陽市林業の管理方式に関する研究
審 査 委 員 会	主査 信州大学 教 授 小 池 正 雄 副査 信州大学 教 授 野 口 俊 邦 副査 静岡大学 教 授 小 嶋 睦 雄 副査 岐阜大学 教 授 安 部 淳

論 文 の 内 容 の 要 旨

現在中国は広大な国土面積と 13 億人という人口を有しかつ高度経済成長を遂げており、インドと並んで世界経済の展開の基軸となっている国である。この国における森林と人間の関係を中華人民共和国成立以降に絞って見てみると、政策転換に伴うそれぞれの画期ごとにドラステックな形での展開が見られ、現在の段階にいたっている。

本論文においては中国の中でも全国で 2 都市のみ「森林都市」として指定されている内の 1 都市である瀋陽市を事例に取り、瀋陽市林業の管理方式の展開に関して、現地での資料収集、聞き取り調査などを実施した結果を纏め上げたものである。

本論文で管理方式の分析に使用した枠組みは、ロシアにおける資本主義の発展、クロハリョフ、大金経営論等を基にして生産様式論としての独自の分析の枠組みを使用している。このような分析の枠組みに基づいて計画経済体制期から市場経済体制への移行、そして現在に至る展開の時期区分を行う中で分析を進めた。伝統的中央集権型計画経済期においては建国直後の旺盛な木材需要に対応すべく採取林業による木材の提供を中心とした生産方向に基づく合理的利用という経営理念が採用されていた。1960 年代の周恩来政権期に入ると永続的利用という経営理念に基づく管理に移行した。しかし 1966 年以降 1976 年に至るまでの文化大革命の時期は無計画な木材生産がなされるのみで一切の管理がなされない停滞期となった。1977 年以降はこの反省に基づき永続的利用の経営理念の法制化がなされ、環境保全を重視した管理にベクトルが向かい始めた。これが 1990 年代に入り鄧小平の社会主義的市場経済体制への転換以降環境保全を重視した近代化された林業の展開期となり、用材林・防護林の造成が本格

化するに至り、1998年には天然林の伐採を禁止する現行の森林法に移行することになった。これ以降現在の森林都市建設期に入り、自然生態環境を重視し森林資源の保護を徹底し、積極的に造成し科学的に経営し、持続的に利用する持続可能な経営理念に基づく経営が行われている。

このように瀋陽市の森林管理方式は、中国の政治・経済・思想・社会の展開動向に直接左右されてきた。そのような中で経営理念は合理的利用段階から永続的利用段階を経て現在の持続可能な経営段階に至っており、経営の生産方向は木材の提供段階から環境保全の重視段階を経て多面的諸機能の重視段階に至っている。

瀋陽市における森林管理の現在に至る過程における頻繁な政策転換とそれに規定された森林・林業法制度の未整備、技術者の不足、会計制度の立ち遅れ等を克服した持続的な森林管理の枠組み構築が求められている。

審 査 結 果 の 要 旨

中国瀋陽市は貴陽市と並び現在中国で最も先進的な森林管理方式を採用している都市「森林都市」として知られている。本論文は中華人民共和国成立以降現在に至る瀋陽市の森林管理方式の展開構造及び現在の到達点を把握することを目的としている。

森林の管理方式を規定する枠組みとしては、以下の5点が上げられる。

- ① その時代時代の社会経済情勢
- ② 社会経済情勢に規定される経営の社会的タイプとそれに固有な労働力の質的水準
- ③ 労働手段の発達段階とそれに規制される技術体系・・・作業法、更新方法、伐出方法。
- ④ 労働対象としての森林の性格
- ⑤ その時代時代に森林に求められる諸機能に規定される経営の生産方向

以上の規定要因を分析装置として計画経済体制期を経て市場経済体制期に至る瀋陽市の森林管理の展開構造を把握した。瀋陽市の森林管理方式の変遷を伝統的中央集権型計画経済期、中国的中央集権型計画経済期、計画的商品経済期、社会主義的市場経済期、高速発展の社会主義的市場経済期の6段階に時期区分し現在の森林都市建設期に到達するに至る展開構造を明らかにした。この過程はまた経営理念の変遷から見れば合理的利用から永続的利用を経て持続可能な経営段階への展開であり、経営の生産方向から見れば木材の提供段階から環境保全の重視段階を経て、多面的諸機能の重視段階への到達であることを明らかにした。

とは言え、現段階における瀋陽市における森林管理方式には様々な解決すべき諸問題点が存在している。頻繁な政策転換。市場経済体制下の森林管理に相応しい管理体制の整備の必要性。大きく社会経済情勢が変わる転換期における今日、森林管理に不可欠な森林・林業法制度が適合していない。行政がヘゲモニーを握った一方的な森林管理。投下資金の不足。旧来からの会計制度の新たな森林管理方式への不適合。以上のような解決を迫られている諸問題点の存在を明らかにした。

これらの諸問題点の中から瀋陽市が採用している林業会計方式に着目して考察を

加えた。瀋陽市においては建国初期から 1970 年代中葉までの合理的利用の管理方式を採用していた段階においては、旧ソ連の林業会計制度を採用しておりそれは採取林業の林業会計方式であり育林生産費用概念は存在しなかった。1970 年代末から現在に至る森林の永続的利用段階においては、以前の段階に比すれば環境保全が重視され育林生産費用を守備範囲に加えた林業会計制度が採用された。しかし主たる経営の生産方向は木材生産であり、木材生産を目指した林業会計制度であるという限界がある。21 世紀に入った現在における森林管理方式は森林の多面的諸機能を重視した持続的な経営段階に入っており、森林の多面的諸機能の価値も守備範囲に加えた会計制度導入が不可欠であるとの結論に至った。その上で会計制度の枠組みに関する予備的考察を加えた。具体的な枠組みの提示及びその瀋陽市森林管理への適用は、今後取り組むべき課題として残されている。

以上のように本論文は中国で森林管理の先進地と言われる瀋陽市を事例に取り、建国以来の森林管理方式の展開構造を現地実態調査による収集資料や現地聞き取り調査に基づき、纏めあげ、次の二点の新たな知見を付け加えた点で評価できる。①森林管理の展開方式の分析手法に関して生産様式論に基づいて独自の枠組みを用いての分析を実施したこと。②瀋陽市の森林管理の到達点と現存する様々な諸問題点を析出し、中でも会計制度の問題点を的確に指摘したこと。

以上について、審査委員全員一致で本論文が岐阜大学大学院連合農学研究科の学位論文として十分価値あるものと認めた。

学位論文の基礎となる学術論文

何 萍萍・小池正雄：森林環境会計に関する予備的考察、森林計画学会誌、39 巻 1 号、39－48、2005

何 萍萍・小池正雄：瀋陽市林業の展開過程、森林計画学会誌、40 巻 2 号、163－175、2006